



- 1.患者さんの権利と意思を尊重します。
- 2.地域と連携し、適切ながん医療を提供します。
- 3.教育と研修を充実し、優れた医療人を育成します。

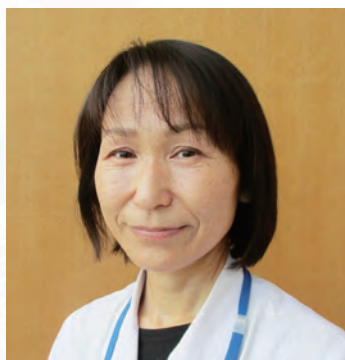
群馬県立がんセンターだより

第49号

発行：令和4年2月

発行元：群馬県立がんセンター

GUNMA PREFECTURAL CANCER CENTER NEWS



薬剤部長

齊藤 妙子

おくすりたくさん飲んでいませんか？

患者さんの服用中のお薬の確認をしていると、たくさんの種類の薬を服用されている患者さんが多くいらっしゃいます。ポリファーマシーという言葉聞いたことはありますか？ポリファーマシーとは、ポリ(poly:たくさん)、ファーマシー(pharmacy:薬)を組み合わせた造語ですが、ただ単にたくさんの薬を飲んでいることではありません。薬が多くなるにつれて、薬物有害事象(※1)の増加、飲み間違い、服薬アドヒアランス(※2)の低下などの問題につながる状態のことです。適切な治療上必要な薬が多くなることもあります。(※1.「薬物有害事象」は、薬の使用後に発現する有害な症状又は徴候であり、薬との因果関係の有無を問わない概念として使用し、薬との因果関係が疑われる又は関連が否定できないものとして使用される「副作用」とは区別しています。※2.「服薬アドヒアランス」は患者自身の治療への積極的な参加のことを言います。)厚生労働省では、高齢者における薬物療法の適正化や医療の質の向上を目指して、平成29年度に「高齢者の医薬品適正使用の指針(総論編)」を、平成30年度には指針各論編として療養環境別の指針を取り纏めています。

高齢になると生理機能(腎機能や肝機能など)が低下し、複数の病気を持つ人が増えてきます。新たな病状が増え受診する医療機関が複数になることも薬が増える原因となります。75歳以上の高齢者の4割は5種類以上のくすりを使っています。高齢者では使っている薬が6種類以上になると、副作用を起こす人が増えるというデータもあります。飲み方が異なる薬が増えることで、飲み間違いをしやすくなり、服薬アドヒアランスの低下による治療効果の低下や副作用の恐れもあります。軽い症状や一時的な症状で開始した薬を漫然と飲み続けている場合も見受けられます。

ご自身や、ご家族の中でたくさんの薬を飲んでいる方、お薬が多いと感じる方は一度見直してみるとよいかもしれません。ただし、自己判断による中止は絶対に避けてください。飲み合わせや薬を飲んでいて気になる症状があったら、医師、薬剤師に相談してください。薬が多いからといって必ず減らすべきということではなく、ご自身の病気の症状や原因を知り、薬がどのような役割をしているのか理解していることが大切です。

私たちは患者さんの不安や疑問を解決し、最善の医療を提供できるよう努めてまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

部署紹介

感染対策室



感染対策室は院内外の感染症発生状況を把握し、患者様がより安全にそして安心してがん治療に取り組めるよう活動をしています。感染管理を専門とする看護師を専従とし、医師、検査技師、薬剤師など多職種で構成されています。現在新型コロナウイルス感染症が蔓延しているなかで不安を感じながら治療を受けられていることと思いますが、少しでも不安がなくなり、いつも通りのがん治療を受けていただけるようにすることが使命の一つと考えています。

院内感染対策で大切なことは、まずはウイルスや薬剤耐性菌などの病原体が院内に入らないようにすることです。そして院内に入り込んだ病原体や院内で発生した病原体が拡がらないようにすることです。そのために職員への手指衛生などの感染対策の徹底や患者様・ご家族への感染対策の啓発を行っています。また院内感染を早期に発見するために、原因となりうる薬剤耐性菌の発生状況を平時より把握し、院内感染が疑われるときは速やかに対策がとれるようにしています。近年、薬剤耐性菌が世界的に問題視され、抗菌剤のむやみな使用が原因の一つとして考えられています。当院でも抗菌剤使用について対策チームで検証し、不適切な使用がないように取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症対策として面会制限や手術前PCR検査など、皆様にはご負担をおかけしておりますが、今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

行事紹介

群馬県立がんセンター
「第2回がん診療連携大会」を開催しました

2021年11月2日(火)に地域医療連携事業の一環として、がん医療等に携わる医師などを対象とした「第2回がん診療連携大会」を沢山の先生方に参加していただき、開催することが出来ました。

鹿沼院長の開会挨拶から始まり、①尾嶋消化器外科部長による当院の現況報告として「低侵襲ロボット支援手術について」の説明 ②各科の代表の先生が集まり、パソコンの前で直接発表していただく診療科の紹介 ③アンケートに対する回答及び質疑応答を行いました。

③については当日オンライン上での質疑応答による意見交換は難しいと思い、参加申込み時に、事前アンケートによる回答方法を取り入れました。その結果、地域医療機関の先生方よりたくさんのご意見・ご質問を頂戴し、当日回答して頂く該当医師など準備することもでき、今までにない斬新な意見交換会ができたと感じています。各医療機関の先生方からも「自分の質問に回答してもらい満足」「診療科内容がわかりやすく紹介しやすくなった」などの好意的な意見を頂きました。

コロナウイルス感染防止の観点から初めてのオンラインでのがん診療連携大会の開催となりましたが、7月よりワーキンググループを立ち上げ、何度も会議を行い皆様のお力添えのもと実りある会を開催出来たと感じております。

来年度についても、新型コロナウイルスの感染拡大の状況を鑑みながら、その場に即した形で、がん診療連携大会を開催することを考えています。



外来診療のご案内(外来担当医一覧表)

令和4年2月1日現在

区	分	月	火	水	木	金
第一外来	内科	消化器			保坂尚志	保坂尚志
		血液	村山佳予子 血液内科(午後新患)	入沢寛之哉 村田直哉	村山佳予子 血液内科(午後新患)	村山佳予子 村田直哉 血液内科(午後新患)
		呼吸器	湊浩一 (午後/禁煙外来) 呼吸器内科 (午後新患)	増淵健		呼吸器内科 (午前新患)
	外科	消化器			尾嶋仁 木暮憲道 持田泰大 高田考大 鈴木雅貴	尾嶋仁(新患) 木暮憲道 持田泰大 高田考大 鈴木雅貴
		乳腺	柳田康弘 藤澤知巳志 宮本健志 矢内恵子	柳田康弘 藤澤知巳志 宮本健志 矢内恵子	乳腺科医師 (新患のみ)	乳腺科医師 (新患のみ)
		呼吸器			田嶋公平 永島宗晃 (午後新患)	田嶋公平 永島宗晃 (午後新患)
		形成	廣瀬太郎			廣瀬太郎
		骨軟部腫瘍			柳川天志 (午前のみ)	柳川天志
		(リンパ浮腫)	リンパ治療・指導	リンパ治療・指導	リンパ診断	
		(ストーマ外来)			午前/ストーマ外来	午前/ストーマ外来
					午前/ストーマ外来	午前/ストーマ外来
第二外来	婦人科	中村和人 山下宗一 木暮圭子 西村俊夫	中村和人 山下宗一 木暮圭子 西村俊夫	鹿沼達哉 (第1、3)	中村和人	中村和人 山下宗一 木暮圭子 西村俊夫
	歯科口腔外科	名生邦彦	新垣理宣	名生邦彦		新垣理宣
	頭頸科				頭頸科医師 名生邦彦(午前)	鈴木政美 名生邦彦(午前)
	麻酔科	麻酔科医師				麻酔科医師 (午前/術前診察)
	泌尿器科	清水信明 蓮見勝 泌尿器科医師 (午後/新患のみ)	清水信明 村松和道 泌尿器科医師 (午後/新患のみ)		清水信明 蓮見勝 村松和道	清水信明 蓮見勝
	精神腫瘍科			村上忠		
放射線科	放射線	北本佳住(新患) 村田真澄 岡崎祥平	北本佳住 村田真澄 岡崎祥平(新患)	北本佳住 村田真澄 岡崎祥平	北本佳住(新患) 村田真澄 岡崎祥平	北本佳住 村田真澄(新患) 岡崎祥平
腫瘍内科	腫瘍内科		荒木和浩		荒木和浩	

※緩和ケア外来の受診を希望される方は“がん相談支援センター”へお問い合わせください。直通電話:0276-60-0679

診療予約 *初診、再診ともに予約制です。

●初診紹介予約制について

当センターは「完全紹介予約制」です。初めて受診される方はあらかじめ電話で診療日時の予約をしていただき、診療当日は必ず主治医の紹介状(診療情報提供書)をお持ちください。また、再来の方も予約制となっておりますので、事前に予約をおとりください。

●がん検診について

当センターでは、がんの検診(一次検診)は行っておりません。市町村の検診や人間ドックをご利用ください。検診で異常を指摘された方の診療は行っております。

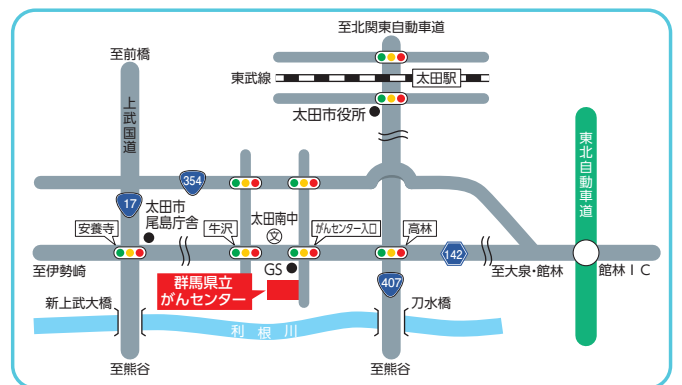
予約専用電話 0276-38-0762

電話受付時間/平 日:午前9時~午後5時

土曜日:午前9時~午後1時

※ただし、診療を希望される前日の午後1時までにご連絡してください。

休診日/土・日曜日、祝日、年末年始



群馬県立がんセンター

〒373-8550 群馬県太田市高林西町617-1
TEL.0276-38-0771(代) FAX.0276-38-0614

URL <http://www.gunma-cc.jp>